



避難訓練 ～災害で助かる人、助からない人の違いとは～

28日に休み時間に機械室から出火したことを想定しての避難訓練を行いました。

授業時間中の訓練では教師の指示に従って避難すればよいのですが、今回は休み時間ですので、無事に避難するために越えなければならない様々なハードルがあります。「放送があったら遊びやおしゃべりを止めてしっかり放送を聴く」、「自分勝手な行動をせず、指示に従う」、「安全な避難経路を選ぶ」などです。そして高学年は、近くの低学年をまとめ、安全に避難場所まで連れて来ることにも必要です。

実際はどうだったかという、放送があっても遊んでいたり、指示に従うことができなかつたりする児童も見られました。そして、避難開始から全校児童が整列し担任からの人数報告が終了するまでの時間は1分57秒でした。体育館への避難だったことを考えると時間もかかっています。私は、子どもたちに自分の命は自分で守れるようになってほしいと思っていますが、これではまだまだ十分とはいえません。

災害で助かる人と、命を落としてしまう人の違いはどこにあるのでしょうか。写真は2003年に韓国で起こった地下鉄火災の写真です。この事故では、およそ200名の方が命を落としました。そのほとんどは、逃げ遅れて車内に閉じ込められたまま焼け死んでしまったのです。公表された写真の中に、焼ける前の地下鉄内で乗客が出火後の車内の様子を写した写真がありました。煙が充満しつつある車内に乗客（10人くらい）が座席で押し黙って座っているという不思議な写真です。なぜ逃げようとしなかったのでしょうか。これは「多数派同調バイアス」と「正常性バイアス」に陥ってしまったのではないかとされています。



煙が充満したら直ちに避難するなどの緊急行動をとると思うのが自然です。しかし、過去経験したことの無い出来事が突然身の回りに起きたとき、人はその周囲に存在する多数の人の行動に左右されてしまいます。それは、その人が過去様々な局面で繰り返してきた行動パターンだからです。どうしていいかわからないとき、他の人と同じ行動を取ることによって乗り越えてきた経験から、迷ったときは周囲の人の動きを探りながら同じ行動を取ることが安全と考えるしまうこと、これが「多数派同調バイアス」です。



そして、こんなことが起こるはずがない、これは何かの間違いか訓練なのではないか、これは異常ではなく「まだ正常」と思い込もうとし、緊急スイッチが入らない状態、つまり異常も正常の範囲内と捉えてしまうのが「正常性バイアス」です。心の安定を保つための機能がここでも働いてしまったということです。

子どもたちには、「事故や災害のときは、一番に逃げる人になりなさい。」と話しました。あの東日本大震災で、子どもたちに一人の犠牲者も出さずに「釜石の奇跡」と言われた釜石の避難三原則、「・率先避難者たれ ・想定にとらわれるな ・全力を尽くせ」にも通じることです。

将来、海の近く、山の迫った所、大都会・・・様々な所で生きていく子どもたちです。どこに住んでも、自分の命を大事にし、自分の命を守れる人になってほしいと思います。自分の命を守れなければ、人を助けることもできないからです。